

令和7年度

大商学園高等学校 入学検査問題

国語

(50分)

注意

- * 「開始」の合図があるまでは開いてはいけません。
- * 「開始」の合図のあと、解答用紙に受験番号と氏名を書きなさい。
- * 答えはすべて解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- * 「終了」の合図ですぐ筆記用具を置きなさい。

【一】次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

みんなから好かれない。まわりから認められたい。たくさんの人から慕われたい。そんな「されたい病」に罹^かっている人が多いようです。自分では何も努力せずに、ただ人からのアクションを待っている。そして好かれないことを自分のせいではなく、他人のせいになっている。自分のことを好きになってくれないのは、その人のせいだと。

もしもそんなふうを考えていたら、きっといつまでたっても良い人間関係は生まれません。人と人との関係は、もちろんお互いの心によって生じるものです。一方的な関係は成立しません。

X、その関係を始めたり、深めるきっかけをつくり出すのは、どちらか一方であるものです。

もしもその人と関わりをもちたいと思うのなら、自分のほうから行動を起こすことです。相手が行動を起こしてくれるのを待っているだけでは、望んでいる関係は築くことはできません。

たとえば、会社の中に気になる人がいるとします。

一度、話してみたいと思っっている。そんなときに、相手が話しかけてくれるのを待っているだけでは進みません。朝に会えば笑顔で「おはようございます」と言う。一言も話したことがなくても、アイサツ^(b)くらいはできるはずです。

そうして何度かアイサツを交わしていくことで、相手の心にも必ず残ってきます。そんな些細なきっかけが、良き関係につながることはいくらでもあります。

「自分から声をかけるのが苦手だ」

④「私は③な性格だから、そんなことはできない」

もしもそう思うのなら、声をかける必要はありません。厳しい言い方かもしれませんが、それくらいの気持ちしかないということだと思います。

人づき合いの上手・下手を性格のせいにする人がいます。自分はこういう性格だから、人づき合いが下手なのだ。それは単なるオウチャク心^(c)だと思います。人づき合いに上手も下手もありません。

よく「人間関係のテクニック」とか「人づき合いが上手になる方法」などという書物を見かけますが、もしも人間関係にテクニックがあるのなら、人づき合いで悩む人などいないはずです。

そこにテクニックがないからこそ、人は人間関係に悩むのです。[Y]、心を通じ合えるテクニックがないからこそ、人間関係は面白く深みのあるものになるのだと思います。

相手に何かを望む前に、まずは自分のほうからその人との関係を築く努力をしてください。まわりを見回せば、ミリオク的な人はたくさんいます。

誰からも慕われて、たくさんの人たちが集まってくる。自分もあんな人になりたい。そんな憧れを抱いているのなら、まずはその人の近くに行ってみる事です。

「薫習」という禅語があります。

日本では昔からコロモガエの習慣があります。

冬に着ていた服を、春になれば仕舞い、春物の服を出してくる。服を仕舞うときには、ボウチュウザイとしてお香を入れていました。そのお香の香りが、仕舞っておいた服に移っている。

本来服には何のニオイもありません。それが季節をまたぐうちに、とても良い香りを身にまとっているのです。実は人間もまた、これと同じだと思います。

美しい心をもつ人の近くにいれば、自然と自分の心も美しくなっていく。邪な心もちアクギヨウを重ねている人の傍にいれば、自分もまた悪いほうへと流されていく。

人間とは互いに影響を受け合いながら生きていくものです。

お香の香りが服につくように、人間の心もまた、まわりに移っていきます。[Z]、尊敬できる人の近くに身を置くことが大事なのです。みんなに慕われている人。その人の傍に身を置いて、その人の言動をよく見る事です。

きっとその人は努力をしている。自分のことよりも先に、まわりの人のことを考えている。細やかな気遣いを心がけ、相手の気持ちを慮

っている。何もせずに慕われる人などいません。

その人の一挙手一投足を見つめながら、自分の行動を顧みることです。そしてときには真似をしてみるのもいい。その人のもつ香りを精一杯、自分の身に移らせる事です。

もしかしたら、そこにこそ「人づき合い」のテクニックなるものがあるのかもしれない。

『比へず、とらわれず生きる』 柘野俊明

問1 傍線部(a) (i) の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問2 空欄[X] (j) [Z] にあてはまる適切な語を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア すると イ であるからこそ ウ とはいうものの エ しかし
オ そして カ ただし キ いずれにせよ

問3 本文には次の一文が抜けています。この一文が入る直後の五字を書き抜きなさい。

まずはアイサツをすることです。

問4 傍線部①「良い人間関係」とありますが、それを生むために必要なものを次の中から全て選び、記号で答えなさい。

- ア 自分が好かれるための努力 イ 認められるまでひたすら耐える忍耐力
ウ 全て自分に責任があると考える責任感 エ 責任を他者にも押し付ける協調性
オ 自分から動く行動力 カ 自分の性格を認める自己肯定感

問5 傍線部②「関係を始めた」とありますが、そのために必要なことは何ですか。本文中から十五字で探し書き抜きなさい。

問6 空欄③に入る表現として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 意欲的 イ 積極的 ウ 消極的 エ 感傷的 オ 利己的 カ 悲観的

問7 傍線部④「もしもそう思うなら、声をかける必要はありません」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 無理をして人間関係を築いても当人同士が精神的に疲弊し、その関係は長くは続かないから。
- イ ただ図々しく怠けているだけで意志は弱く、その程度では人間関係を築くことは不可能だから。
- ウ 自分から声をかけなければならないような相手ならば、そもそも人間関係を築こうと考えないから。
- エ 何度かアイサツすれば相手の心に残るはずなので、それ以上行動しなくても人間関係は築けるから。
- オ 初対面の人に声をかけることはあまりにも非常識で相手に対して失礼な行為に値するから。

問8 傍線部⑤「まずはその人の近くに行ってみることで」について、あとの問いに答えなさい。

- ①「その人」とはどのような人ですか。本文中から十一字で探し書き抜きなさい。
- ②「近くに行ってみる」とありますがその理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 良い人間関係を築くためにはまず相手のことを深く理解する必要がある、理解して初めて一歩前進することができるから。
- イ 人間の心は流されやすく傍にいる人間の影響を受けるので、可能な限り近くに身を置くべきだから。
- ウ 心を通じ合えるためのテクニクはないと思いがちだが、近くで観察すると見えてくるから。
- エ どんな人間にも親しくならなければならない欠点がある、それを理解する必要があるから。
- オ 人の心をつかむ方法を学ぶために、取り巻きの加わり、気に入られるように努力しなければならないから。

問9 傍線部⑥「それが季節をまたぐうちに、とても良い香りを身にまとっている」について、あとの問いに答えなさい。

- ①「それ」とは何ですか。漢字一字で答えなさい。
- ②「身にまとっている」とありますが何を身にまとっているのですか。本文中から探し書き抜きなさい。

問10 本文の内容として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア どんな相手でも分け隔てなく接すること。
- イ 人から慕われないなら、人を慕うこと。
- ウ 心を包みかくさないで生きること。
- エ 一度の出会いさえ心に刻みながら生きること。
- オ 孤独という美しき覚悟を持つこと。

【二】次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

今は昔、丹後国に老尼ありけり。地蔵菩薩は暁あけごとに歩き給ふといふ事を、ほのかに聞きて、暁あけごとに地蔵見奉らんとて、ひと世界惑※1ひ※2歩※3くに、博打の打ちほうけて居たるが見て、「尼君は、寒※4きに何※5わざし給ふぞ」といへば、「地蔵菩薩の暁あけに歩き給ふなるに、あひ参らせんとて、かく歩くなり」といへば、「地蔵の歩かせ給ふ道は、我こそ知りたれば、いざ給へ、あはせ参らせん」といへば、「あはれ、嬉※6しき事かな。地蔵の歩かせ給はん所へ、我を率ておはせよ」といへば、「我に物を得させ給へ。やがて率て奉らん」といひければ、「この着たる衣奉らん」といへば、「いざ給へ」とて、隣なる所へ率て行く。

尼喜びて急ぎ行くに、その子に、ぢぢぎうといふ童ありけるを、それが親を知りたりけるによりて、「ぢぢぎうは」と問ひければ、親、「遊あそびに去ぬ。今来なん」といへば、「くは、ここなり。ぢぢぎうのおはします所は」といへば、尼嬉あそしくて、紬ちむぎの衣を脱ぎ取らすれば、博打は急ぎ取りて去ぬ。

尼は地蔵見奉らせんとて居たれば、親どもは心得ず、などこの童を見んと思ふらんと思ふ程に、十ばかりなる童の来たるを、「くは、ぢぢぎう」といへば、尼、見るままに是非も知らず、臥ふし転びて拝み入りて、土にうつぶしたり。童、楯たてを持って遊びけるままに来たりけるが、その楯たてして、手すさびのやうに額をかけば、額より顔の上まで裂けぬ。裂けたる中より、えもいはずめでたき地蔵の御顔見え給ふ。尼拝み入りてうち見あげたれば、かくて立ち給へれば、涙なみだを流して拝み入り参らせて、やがて極楽へ参りけり。されば心にも深く念じつれば、仏も見え給ふなりけりと信まずべし。

※1 ひと世界…あたり一带。

※2 博打…博打をすることを職とする者。

※3 楯…しもと。すわえ。細くまっすぐにはえた枝。

問1 傍線部①「丹後国」は現在の都道府県においてどこに位置しますか。漢字で答えなさい。

問2 二重傍線部A、Dの動作の主を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア 地蔵菩薩
- イ 老尼
- ウ 博打
- エ 親
- オ ぢぎう

問3 傍線部②⑥の現代語訳として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

②寒きに何わざし給ふぞ

- ア 寒さに耐える方法はございますか
- イ 寒いのになぜそんな服装をしていらつしやるか
- ウ 寒いときに何の修行をなさっているのか
- エ 寒いのに何をしていらつしやるか
- ⑥えもいはずめでたき

ア なんとも言えずありがたい

イ 声が出ないほどの恐ろしい

ウ 言葉が出ないほど目立つ

エ 何とも言いきれない出来栄えの

問4 傍線部③「嬉しき事かな」とありますが、その理由を述べた次の文の空欄に解答用紙の字数に合うように適切な言葉をそれぞれ本文から抜き出し、答えなさい。

(Ⅰ)が(Ⅱ)に対して、「地藏菩薩に(Ⅲ)」と答えたから。

問5 傍線部④「と思ふ程に」とありますが、どこからが親どもの思っている心中文ですか。始まりの四字を抜き出し、答えなさい。

問6 傍線部⑤「臥し転びて拝み入りて、土にうつぶしたり」とありますが、老尼は誰を、何だと思っているのですか。二十字以内で答えなさい。

問7 博打の発言を次から選び、記号で答えなさい。

ア 地藏菩薩の暁に歩き給ふなるに、あひ参らせんとて、かく歩くなり

イ 我に物を得させ給へ。やがて率て奉らん

ウ この着たる衣奉らん

エ 遊びに去ぬ。今来なん

問8 本文の内容と合致するものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 老尼は地藏菩薩が歩き回るといふ噂を聞いて、真相解明のために博打と旅に出ている。

イ 博打は、老尼が地藏を探しまわるうちに疲れてしまったので、自らの服を着せて休ませている。

ウ わが子であるじぎうに、博打に案内されてわざわざ会いに来た老尼を親たちは不審に思った。

エ ぢぎうという子どもの正体は地藏菩薩であり、老尼とその親たちは極楽浄土に行くことができた。

問9 この本文の趣旨として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 地藏菩薩は人に化けて存在し、多くの試練を乗り越えた者だけが出会うことができるということ。

イ 博打のように他人のために時間を割き、助けることで思わぬ褒美が手に入るということ。

ウ どんなことがあるかと深く信じ続けることにより、最後にその願いが叶うということ。

エ 自分たちの子どもにわざと会わせまいと嘘をつくこと、大切なものを失ってしまうということ。

問10 本文は鎌倉時代に成立した作品から引用しています。この作品の成立以前のを次から選び、記号で二つ答えなさい。

ア 『雨月物語』

イ 『平家物語』

ウ 『源氏物語』

エ 『徒然草』

オ 『枕草子』

カ 『義経記』

【三】 次の①～⑤の文学作品の冒頭部分を読んで、その作品名と作者名を後の語群から選び記号で答えなさい。

- ① 行く川の流ればたえずしてしかもこの水にあらず。
- ② 春は、あけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこし明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。
- ③ 月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。
- ④ 知に働けば角が立つ。情に棹^{さか}させば流される。
- ⑤ 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底がしろくなった。

〔作品名〕

ア 源氏物語 イ 枕草子 ウ 伊勢物語 エ 方丈記 オ 徒然草

〔作者名〕

カ 奥の細道 キ 草枕 ク 暗夜行路 ケ 雪国 コ 細雪

F 川端康成 G 松尾芭蕉 H 清少納言 I 夏目漱石 J 志賀直哉

A 鴨長明 B 島崎藤村 C 兼好法師 D 紫式部 E 世阿弥

【四】 次の空欄に漢字一字を入れ四字熟語を完成させ、その四字熟語の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 一 一 機応変
- ② 晴 一 一 雨読
- ③ 前代未 一 一
- ④ 馬耳 一 一 風
- ⑤ 大 一 一 晚成

受験番号
氏名
得点

二											
問10	問9		問8		問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1
	②	①	②	①						X	(f) (a)
										Y	(g) (b)
										Z	(h) (c)
											(i) (d)
											(j) (e)

二									
問9	問7	問6		問5	問4		問3	問2	問1
					Ⅲ	Ⅱ	I	②	A
									B
								⑥	C
									D

三	
④	①
作品名	作品名
作者名	作者名
⑤	②
作品名	作品名
作者名	作者名
③	
作品名	
作者名	

四		
⑤	③	①
漢字	漢字	漢字
読み	読み	読み
④	②	
漢字	漢字	
読み	読み	